

主な内容



3~6ページを、抜き取ってご使用ください

ごみ収集日程表 (4月~9月) ごみの分け方・出し方

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp 🌐http://www.city.nabari.lg.jp

◆「ごみ収集日程表」と「ごみの分け方・出し方」を3~6ページに掲載しています。抜き取ってご使用ください。

防災訓練の課題

- 避難所運営など**
 - 組織・役割分担**
課題 地域災害対策本部や避難所運営で役割分担が不明確なため混乱。マニュアルの策定や訓練支援による組織力の強化
 - 指定避難所**
課題 多くの地域が公民館、市民センターでの訓練だったが、小中学校を会場とした訓練の実施と、教育委員会・学校との連携強化
- 避難行動**
 - 要援護者対策**
課題 平常時の活動を通じ支援方法を確立している地域もあるが、全体的に災害時要援護者支援対策が不十分。また、制度や共助の重要性の周知
 - 避難経路・避難場所**
課題 避難経路の不徹底。一時避難場所より指定避難場所が近い場合の避難先選択で混乱
 - 安否確認**
課題 居住者の事前把握。特に集合住宅居住者の確認が困難
- 避難広報**
 - 情報伝達と情報収集**
課題 車両による広報範囲には限界があるため、防災ほっとメールやFMなばり(83.5MHz)など、複数情報入手経路の確保。また地域内連絡網の構築・活用



訓練で見た 災害時の課題

南海トラフを震源とする巨大地震がいつ起きてもおかしくないと言われています。そうした中、昨年9月22日、市民総ぐるみで相互連携を強化する訓練「名張市総合防災訓練」を実施し、約1万5000人が参加しました。

市では、訓練の検証を行い、今後の防災対策、防災訓練に生かしていきます。

今号では、訓練で見つけた課題をお伝えするとともに、2月15日、「避難所開設・運営について考える」と題して開催した名張市防災講演会の講演内容の一部をお伝えします。

東日本大震災から3年が経とうとしています。自らの備え、地域の備えについて、いま一度、考えてみませんか。

☎危機管理室
63・7271

防災ほっとメールを登録ください!

防災・防犯情報を携帯電話や、スマートフォンへお届けします。

登録方法
携帯電話などで、<http://www.anshin-bousai.net/nabari/>に接続するか、QRコードから登録ください。

◎登録は無料。通信料は自己負担です。
◎市民5,250人が登録しています。



登録用QRコード

名張市防災講演会 近所付き合いや顔つなぎが、災害時の連携に

自 然災害というのは、規模や被害などは起きてみるまで、だれにも分かりません。しかし、今までに日本で起きた自然災害をみると「死ななければなんとかなる」ということが分かります。水や食料の準備も大事ですが、我が家の安全を確保し、命を守ることが大切です。そして、大切な人との連絡をとる方法を確立しておくことも重要です。



避 難所の運営では、行政をあてにしているだけではいけません。行政主体では、全地域同じような運営方法を取ろうとします。しかし、それぞれの地域で状況や必要なものは違ってきます。災害時は地域にあった対応が求められます。また、女性が参画していない組織は機能しません。

計 画やマニュアルづくりも大切です。計画通りの災害はまず起こりませんが、事前話し合いをしたり、行動を想定したりする過程が重要となります。「仲良くお祭りができている地域は防災できる」と言われます。これは、普段からの近所付き合いや、顔つなぎができていれば災害時にも連携がとれるということです。

防 災に100点満点はありません。防災訓練は、けがさえなければ失敗してもいいのです。失敗のない見せ掛けの訓練では駄目。失敗を生かすことが大切です。できるだけことをし、今より一歩でも二歩でも前進すればいいのです。

(公財)市民防災研究所 特別研究員
細川 顕司さん

●次回の「名張市総合防災訓練」は、**11月30日(日)**に実施。詳細が決まり次第、広報なばりなどでお知らせします。